

コミュニティ形成を

半壊マンション復興の阿比留哲さん

★平成十七年の福岡県西方沖地震で、自宅マンションが半壊。約一年の短期間で耐震改修を実現したマンション管理組合相談役、阿比留哲さん(七六)が、このほど来高。「住民同士の力で減災を」と呼び掛け

阿比留さんが住むマンションは当時、築七年。十五階建てで百八世帯が入居。震度6弱の揺れに、入浴中の人は「あふれたお湯が天井から降り、外壁ははがれ落ち、中下階は玄関ドアが変形、開



「地震でコミュニティづくりが進んだ」と話す阿比留さん

(高知市知寄町2丁目)

ぴーぷる

かなくなった。一階駐車場の柱のほとんどに亀裂が入った。

補修工事では、震度7に耐えられるよう、一階駐車場に鉄骨を入れるなどした。共有部分に掛かる費用は約二億六千万円に上ったが、地震保険などを活用し順調に進んだという。住民の団結には「徹底的に情報を公開し、共有することが大事」という。

地震前、住民同士の交流はほとんどなく、地震後、管理組合規約に「コミュニティの形成」という一文を加えた。絵画教室の開催など、顔を合わせる機会を持つようにし、助け、助けられる関係づくりを進めている。

「災害時、行政は当てにできない。隣近所、知った者同士の連携が大事。互いに高齢化も進むし、日ごろから心をつき合わせる必要がある」